

先日の運営委員会にはかり、賛成承認していただけましたので、会員のみなさまにお知らせする次第でございます。

一、仮称『村落社会調査研究叢書』は、村落社会研究会の調査報告シリーズとして、年に一冊くらいの予定で随時刊行し、第一冊第二冊と番号をつけて出版する。

一、原稿枚数四百枚以内、約二百頁の大きさとし、各冊ごとに、題目をかかげた出版物とする。たとえば、村野勉著『村落社会の変動過程—長野県南安曇郡豊科町—』（村落社会調査研究叢書、第一冊）という形で出版される。

一、著者に対しては、原稿料、印税を支払わない。利益が生じたばあいは、刊行基金にかえしてもらうこととする。

『村落社会調査研究叢書』
刊行について

村落社会研究会は、御承知のように、『村落社会研究』を年報として刊行しておりますが、貴重な調査報告が、枚数の制約をうけて圧縮されるばかりも少なくないと思います。

そこで、普通なら刊行しがたい調査報告が「村研のモノグラフ」として出版できたらと、つねづね考えておりました。そして、塙書房とも相談を重ね、とりあえず、五十万円の基金をつむことによつて、二冊までは刊行してもらえることになりました。このことを、

東京大学文学部社会学研究室内、福武直氣付、村落社会研究会編集委員会がその任にあたることになっております。したがって御通知は、委員会あてにお願いいたします。

なお、五十万円の基金は用意してありますので、第一冊目はなるべく早く刊行したいと思います。そして、この叢書の刊行が、村落社会の調査研究を前進させるのに寄与できるよう、会員のみなさまが積極的に御協力下さることを心から期待しておみませよ（福武直記）